

編集後記

高齢者の認知症は、もうすでに大きな社会問題としてあちこちで取り上げられてきているが、若年性認知症は別の意味で最近大きな社会問題となっているにもかかわらず、この問題は真正面から取り上げられることがあまりなかったように思う。そこで、今月の特集には「若年性認知症をめぐる諸問題」を取り上げてみた。老年期の認知症の問題は、周知のように、患者数も多く、現在わが国ではおよそ 120 万人と推定されている。これからは老人人口がますます増加し、特に後期老年者が増加するので、認知症患者は増加の一途をたどることは間違いなく、この問題はさらに大きな社会問題となることになる。

一方、18 歳から 65 歳未満に発症する認知症である若年性認知症については、最近大きな問題として社会的に注目されてきている。わが国での患者数は 4 万人ほどと推計されているが、実際にはもっと多いと思われる。特に 40～50 歳代に多い若年性認知症患者は、働き盛りであり、子どもの養育費など出費の多い時期に発症することが多いので、経済的にも、就労の面でも、医療・福祉の面でも、制度上の面でも多くの問題を抱えている。最近では若年性認知症研究会が結成され年 2 回研究会が開催されているし、各地に若年性認知症の家族会も結成され、活発に活動している。国もやっとこの問題に関心を示し、一応の施策を発表した。そこで、今回の特集では、医療の問題、運転免許の問題、支援制度の問題、就労の問題、家族会の要望、施策など、幅広い立場から若年性認知症の諸問題を明らかにしていただいた。

精神医学領域でも今や認知症は大きなウエイトを占めるようになってきており、「20 世紀は統合失調症の時代といわれていたが、21 世紀は認知症の時代」といわれるようになりつつある。

ところで、たまたま「老年精神医学雑誌」の第 20 巻 8 号 (2009 年 8 月号) で「若年性認知症に関する臨床上の問題」が特集として掲載されている。そこでは、そのタイトルの通り、臨床上の問題に焦点が当てられ、執筆者も 1 編を除いてすべてが医師、特に精神科医であるという点で、医療の立場から見た若年性認知症について解説が加えられている。そういう意味で、若年性認知症に関心のある読者はぜひ両方の特集を読んでほしいものである。

(K. K.)

■ 編集委員

飯森真喜雄

井上 新平

小島 卓也

小阪 憲司

松本 英夫

松岡 洋夫

三國 雅彦

(ABC 順)

精神医学 (第 51 巻 第 10 号)

2009 年 10 月 15 日号 (毎月 1 回 15 日発行)

1 部定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5 %)

2009 年 年々ぎめ予約購読料 30,600 円・電子ジャーナル閲覧オプション付 39,800 円 (税込, 送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 編集室直通 (03) 3817-5711 (担当) 三由・山崎

Fax (03) 3815-7802

E-mail seishinigaku@igaku-shoin.co.jp

URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/seishin/>

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込 (株) 丹水社 電話 (03) 3561-1323

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は(株)医学書院が保有します。

・ JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3515-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。